

会 議 録

| | | |
|--------------------|--|---|
| 会 議 名 | 令和3年度第3回東浦町男女共同参画推進委員会 | |
| 開 催 日 時 | 令和4年2月28日（月） 午後2時から午後3時40分まで | |
| 開 催 場 所 | オンライン及び東浦町役場本庁舎 合同委員会室 | |
| 出 席 者 | 委員 | 山崎 宏子委員長、中村 建志郎副委員長、中島美幸委員、外山 淳恵委員、鈴木 悟志委員、鈴木 涼子委員、戸張 里美委員、児玉 しげみ委員 |
| | 事務局 | 棚瀬企画政策部長、筒香協働推進課長、山本協働推進係長、山田主事 |
| 欠 席 者 | 松下 玲子委員、鈴木 恵子委員、鈴木 友和委員 | |
| 議 題 | 1 開会 2 議題 （1）第3次東浦町男女共同参画プラン（案）について （2）第3次東浦町男女共同参画プランの答申について | |
| 非公開の理由 | | |
| 傍聴者の数 | 0名 | |
| 審 議 内 容 （ 概 要 ） | 別紙のとおり | |

協働推進係長 8名の出席により会議開催の定足数に達していることを確認
傍聴者の確認（傍聴者0人）
会議録作成のための録音の了承
会議資料の確認
オンライン会議の進め方について説明

1 開会

2 議題

(1) 第3次東浦町男女共同参画プラン（案）について

事務局 資料3「第3次東浦町男女共同参画プランへの意見募集結果」によりパブリック・コメントの実施結果を報告した後、資料1「第3次東浦町男女共同参画プラン（案）」及び資料2「第3次東浦町男女共同参画プラン概要版（案）」について、前回の会議からの変更点を説明。

【資料1について】

委員 とても良いプラン案ができたと思う。1ページ目の町長の挨拶文については、現在必要な要素がすべて盛り込まれており、この時期にふさわしい。

4ページの「1.計画策定の趣旨」において、ジェンダー・ギャップ指数の順位について触れている。プランが完成する3月末までには、世界経済フォーラムから2022年時点のものが発表されると思う。できるだけ待ってもらい、間に合うようであれば最新の順位を掲載してほしい。36ページにもジェンダー・ギャップ指数の順位に関する記載があるので同様にしてほしい。

事務局 プランを印刷業者に依頼し印刷するのに3週間程度はかかると思われる。タイミングによって変更できるようであれば変更する。

委員 19ページ「10.東浦町の課題」「1 固定的なジェンダー意識」の項目において、第2段落目の一文が長すぎるのが気になる。三行目で一度文を切ってはどうか。

また、同ページの「2 女性の就業状況」について、文末の「～という考えが根強くなっています。」という表現はおかしいのではないか。「根強いです」という言い切りの形で良いのでは。

委員 「1 固定的なジェンダー意識」の部分で、「全国と比べると根強く固定的性別役割分担意識が残っています」とあるが、「根強く」は「残っています」の前にした方が分かりやすい。また、「違った項目を回答するように…」は「異なった項目」などの言葉の方が良いのではないか。「違った」だと「間違っている」ような印象を受ける。

事務局 「1 固定的なジェンダー意識」については、『男は仕事、女は家庭』という考え方に反対する人は増えているものの、全国と比べると固定的性別役割分担意識が根強く残っています。また、『男の子、女の子と区別せず、同じように育てた方がよい』と思っている人でも無意識のうちに男の子に身に付けてほしいこと、女の子に身に付けてほしいことで異なった項目を回答しています。このようなアンコンシャス・バイアス（無意識の偏見）を含め～」と修正する。
「2 女性の就業状況」については、文末を「根強いです」と修正する。

委員 22 ページ以降、重点施策の書体（例：重点施策 1-1 正しい理解の促進）が本文と同じなので、太くする、大きくするなどして目立つようにしてほしい。
令和4年度の機構改革で住民自治課が作られるとのことだが、この下に男女共同参画の担当が来るということか。

事務局 書体については目立つように修正する。
協働推進課が広報情報課と統合され、住民自治課となる。男女共同参画はそのまま住民自治課が所掌する。

委員 25 ページ、26 ページに「性的マイノリティやLGBTについて、教員の理解がより深められるよう自己研修を実施します」「教職員に対し、ジェンダーに関する自己研修を実施します」とあるが、自己研修とは一人で学ぶという意味の自己研修か。

事務局 自己研修については、教職員が集まって研修をするのではなく、配付された冊子を読み個々で研鑽に努めるものと聞いている。

委員 「自己研修を実施する」という言葉はおかしいのではないか。「自己研修」はあくまで自分で行うもの。教育委員会がレポートの提出を求めるなどしないと、実施したかどうかについては検証

できない。「必要な資料を準備します」といった書きぶりならまだ分かる。

事務局 教育委員会から教員に対する心得のような冊子が配られており、その中に男女共同参画についての記述も含まれていると聞いている。

委員 そうであれば、その実態について書けばよい。

委員 冊子については、「男女共同参画の推進に向けた教員研修モデルプログラム」というものが文科省から出ている。しかし、内容としては自己研修ではなく、組織の中での研修を実施することを想定したもの。

委員から指摘があったように、「自己研修を実施します」という言い回しはおかしい。「研修を実施します」と書けないか。

「自己研修」と書くと、学校教育課では教員の研修を実施していないと取られかねない。

事務局 学校教育課としては、男女共同参画に関する研修は実施していない。教職員が各自で自己研鑽に努めることとしている。

委員 自己研修という言葉は学校教育課としては行わないというメッセージになるため、「自己」を削って単に「研修」とするか、もしくは「校内研修」とし、各校で取り組むというニュアンスにすれば良いのではないか。実際にLGBTも含め各校でいろいろな問題が出ているため、各校での研修は必要だと思う。

委員 学校教育課として研修をしなくても、各学校で研修ができるのならそれが良いと思う。

委員 保育園と学校で「園内」「校内」の呼び方が違い、両方に当てはまる表現がないため、単に「研修」とした方が良いのではないか。

委員 「施設内研修」といった書き方ではどうか。

事務局 現状では、各学校内でも研修は行われていない。各校で研修を実施すると記載すると、学校教育課に研修をするよう指示しなければならない。学校教育課も学校に指示しなければならないため、それは避けたい。あくまで学校の先生が各自で研修を行っていた

だきたいという意図で「自己研修」としている。

委員 「自己」という言葉は「自己啓発」などをイメージする。やってもやらなくても意欲次第と取られてしまう。「各自」という表現ではどうか。

委員 文科省が発表した「男女共同参画の推進に向けた教員研修モデルプログラム」や関連する動画については、学校教育課から各学校へお知らせしていないのか。

委員 資料は学校へ配られていたと思う。だが、時間をとって研修をしている学校は少ないのではないか。

委員 計画は「担当課」が、施策の方向をいかに進めていくかを記載するものであるはず。自己研修はあくまで個々で行うもの。「自己研修」を実施します、という言い方はおかしい。自己研修をどのように担当課として実施するのか。資料を配る、情報を発信するというように、担当課として何をするのかを記載しなければならない。

また、25 ページは「教員に対し」、26 ページは「教職員に対し」となっており、対象が異なっている。

委員 文科省の「男女共同参画の推進に向けた教員研修モデルプログラム」は今年発表されたばかり。LGBT についての研修プログラムは、少し前に発表されている。発表されたものを逐次学校へ提供し、認識を深められるような環境を整備するというように記載した方が実態に近いのではないか。

事務局 25 ページは「性的マイノリティや LGBT について教職員に対し情報を発信し、理解促進を図ります」、26 ページは「教職員に対し、ジェンダーに関する情報を発信し理解促進を図ります」とする。

委員 プランに関してはこの記載で進めるが、研修を実施する方向で進めてほしい。

また、プランには盛り込めなかったが、多くの自治体で学校制服の見直しが進んでいる。尾張旭市や日進市も変わると聞いている。また、長久手市でも変わった。名古屋市市内でも変わってきている。教育現場は次の世代に関わることであるので、より一層ジ

エンダーについての取組を進めてもらいたい。

資料 26 ページ 3 行目に「子供をはじめ様々な世代について～」という記述があるが、「子ども」の表記の誤りではないか。

事務局 修正する。

委員 29 ページの施策の方向「ニーズに合わせた子育て支援」、30 ページの施策の方向「ひとり親家庭の自立支援」が重複している。

事務局 重複部分を削除し修正する。

委員 31 ページ「重点施策 2-2 就労の場における男女共同参画」において、「出産を機に女性の約 6 割が退職するなど～」とあるが、5 割の間違いではないか。28 ページ「重点施策 2-1 ワーク・ライフ・バランスの実現」には、「第 1 子出産を機に離職する女性の割合は 46.9%となっています」とある。

事務局 28 ページの記述と合わせて 31 ページを修正する。

委員 1 ページ目の町長の挨拶について。「引き続き固定的性別役割意識の解消やワーク・ライフ・バランスの実現を図るとともに、新たに性的マイノリティについての理解促進や政治分野での男女共同参画など、近年その重要性が指摘されている分野についても取り組んでいきます」という部分が分かりにくい。「その重要性」が何を指すのか分からない。順番を変えた方が良いのではないか。

事務局 「引き続き固定的性別役割意識の解消やワーク・ライフ・バランスの実現を図るとともに、近年重要性が指摘されている、性的マイノリティについての理解促進や政治分野での男女共同参画などの分野についても取り組んでいきます。」と修正する。

【資料 2 について】

委員 「男女共同参画とは」「東浦町の現状」などの見出しが見づらい。文字の大きさ・太さを変えるなど分かりやすくしてほしい。

事務局 修正する。

委員 3～4ページの「具体的な取組の例」の『例』は不要ではないか。

説明と具体的な取組の例が重複しているところもある。

事務局 「例」を削除すると、これだけしか取組を行っていないように読めてしまう。この部分の記載については、本編の「施策の内容」より抜粋している。

委員 基本理念の説明のところにSDGsの「5 ジェンダー平等を実現しよう」のマークを入れてくれたのが良かった。男女共同参画がSDGsとリンクしていることが分かりやすい。

委員 4ページ目の「具体的な取組の例」の欄で、2行にわたる項目の2行目の文頭が半角ほど下がりすぎている。

また、基本目標1の「具体的な取組の例」3つ目についても、本編の記載に合わせて変更が必要。

事務局 修正する。

委員 資料2の2ページ目「プラン策定の主旨」について、「主旨」という字でよいか。

事務局 資料1の4ページでは「計画策定の趣旨」となっている。意味としても「趣旨」が正しいため、資料2を修正し、「趣旨」で統一する。

委員長 ここまで確認した点を修正した上で、妥当ということで承諾いただけるか。よければ拍手を持って可決とする。

【拍手】

以上で議題1を終了し、答申案の作成を行う。

(2) 第3次東浦町男女共同参画プランの答申について

委員長 事務局の作成した答申案でよければ、審議会から答申を行う。よければ挙手をもって可決とする。

【挙手】

それでは、可決した「第3次東浦町男女共同参画プラン」について、この場で答申する。

第3次東浦町男女共同参画プランについて（答申）

令和2年7月20日付け2東協第964号にて諮問のありましたことについては、本審議会において慎重かつ十分な審議を重ねた結果、本案は妥当であると認め答申します。

閉会